

学校教育目標	学校教育目標「共に生きる」の達成を目指し、そのために生徒に身に付けてほしい力を5つの視点で表し、相互に関連付けながら育んでいきます。 ○探求する心と学び続ける力(知) ○優しい心としなやかに生きる力(徳) ○健やかな心と体(体) ○社会のために協働する力(公) ○未来を切り拓いていく力(開)				
学校概要	創立 79 周年	学校長 竹下 恭子	副校長 内山 太郎	2 学期制	一般学級: 29 個別支援学級: 6
	児童生徒数: 1108 人	主な関係校: 日吉台小・日吉南小・矢上小・北綱島小・箕輪小			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	日吉台中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
○学びに向かう力 ○社会に適応する力 ○生きがいを見出す力	日吉台中学校ブロック	○「笑顔」ー自己の良さに気づき、友達の良さも認め合える子 ○「あいさつ」ー進んで他者とかかわり合い、地域に生きる子 ・本校で実施するブロック内小学校への公開授業及び研究協議を更に充実させる。 ・小中交流日を中心に児童・生徒の交流の場を設定する。 ・各小学校に生徒会役員が出向いて行うガイダンスを更に充実させる。

中期取組目標	○社会に貢献する一員として、自分らしさを発揮し、生きがいと誇りをもって、幸せに生きる人の育成を目指し、学校全体で取り組みます。 生徒一人ひとりの思いを大切に、主体的に取り組めるように次の点を意識させていきます。 ・「気づき考える」「自分で決める」「進んで行動する」そのために「失敗を恐れず、挑戦し続ける」 ○日吉台中学校教職員の心構えとして、次の点を重視します。 ・「傾聴」「受容と共感」を大切にして、生徒理解に努めます。日頃から生徒の良いところを「認めて褒める」ことを実践します。 ・生徒の自己決定を促すことを大切に、説得ではなく、納得を引き出す指導、支援に努めます。 ・「率先垂範」「凡事徹底」を常とし、教職員は、生徒にとって良きモデルになるように努め、人間力を育みます。
--------	--

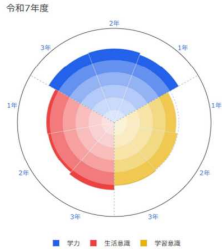
重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	①小中連携を密にし9年間の継続性を重視するため、お互いの取組やより良い授業・評価方法などを共有し実践していく。②教科を越えてお互いに授業を見合い、より良い授業の工夫などをシェアし、授業力向上に努める。③評価を生徒へ丁寧にフィードバックすることや学習状況調査などのデータ分析を活用し、個々に合わせた適切な指導や授業改善に努める。
担当	教育課程・学習	
徳	豊かな心	①生徒の実態をしっかりとらえ、体験的活動を通じて、自己を見つめ、他者との関わりを考える機会を多くつくり、自他を尊重する心の育成に努める。 ②道徳授業の充実をねらいとした研修会等を行い、教員側の意識向上や授業力向上を図る。
担当	道徳・人権・特活	
体	健やかな体	①体育祭や球技大会等の体育的行事を計画的に行うことにより、生徒の運動や体力づくりに対する関心を高めたい。 ②新体力テストの結果等を活用し、自己の体力を分析することや、体力向上と生涯スポーツの視点を持ちながら部活動や保健体育の授業に取り組む。
担当	体育祭・体育・保健	
公開	自分づくり教育 (キャリア教育)	全学年に導入したエナジードという教材をメインの柱としてインプットし、「身近なことで改善できること」をテーマとした課題解決学習を並列で学習しアウトプットすることで、自分自身のより良い生き方や考え方について学び、3年の進路学習を通じて、自己決定と進路実現の実践力を養えるよう指導する。
担当	総合学習	
いじめへの対応		・いじめ防止対策委員会を定期的に開催しいじめの早期発見と未然防止に努め、具体的な支援を推進する。教育相談の時間を十分に確保し、生徒の成長や変化、困り感等に寄り添うようにする。横浜こども会議への取組などを通して生徒の主体性や意見表明を尊重し、いじめの未然防止、豊かな心の育成を図る。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①メンターチームを組織し、ミドルリーダーが中心となって定例の研修を継続して行い、ステージ1,2の教職員の実践力を高める。②行事の運営や校務分掌を工夫し、教職員がそれぞれのステージにおいて学校運営に主体的に関われるように推進する。 ③情報DXを活用した業務の効率化や情報の共有化を図るとともに、持続可能で組織的な働き方改革を推進する。
担当	管理職	
特別支援教育		①特別支援委員会の定期開催と内容の充実を図り、現状や一人ひとりの思いに基づいて支援を要する生徒に対する理解を深める。②不登校支援やユニバーサルデザインに関する研修を行い、職員での理解を深める。③校内ハートフルの運営方法を検討し、生徒の居場所作りの1つとして支援の充実を目指す。
担当	特別支援	
生徒の主体的な活動		・生徒自治の充実とチャレンジ精神の育成に努める。生徒会活動や委員会活動を活性化し、生徒が企画や運営を行い成功体験を積み重ねる中で、挑戦する気持ちが育むよう声掛けや支援を行う。
担当	特活・学習	
生徒指導		①生活のマナー、生徒心得について生徒自らが考え話し合う機会を設定し向上を図る。②長期休業明けの教育相談、毎日の健康観察、日頃の声かけなど生徒理解に基づいた粘り強い支援に組織的に取り組む。③YPアセスメント等を活用しながら、一人ひとりに寄り添った組織的な対応を推進する。
担当	生徒指導	
地域連携		学校運営協議会や学校・家庭・地域連携事業の活動を通して、地域と学校との意思疎通を充分に図り、地域とともにある学校運営を推進していく。地域行事や夏の祭礼、各種イベントなどで生徒が地域社会でいきいきと活動できるように、学校地域コーディネーターとの連携をさらに推進していく。
担当	学地連携・管理職	

学校教育目標	
学校教育目標「共に生きる」の達成を目指し、そのために生徒に身に付けてほしい力を5つの視点で表し、相互に関連付けながら育んでいきます。 ○探求する心と学び続ける力(知) ○優しい心としなやかに生きる力(徳) ○健やかな心と体(体) ○社会のために協働する力(公) ○未来を切り拓いていく力(開)	
教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
○学びに向かう力 ○社会に適応する力 ○生きがいを見出す力	○自分で考え、行動する。 (気付く力、予測し計画を立てる力、主体的に参加する力) ○狭い世界に閉じずに幅広い知識と視点を身に付け、他者と協働する。 (多面的に物事を捉える力、社会全体を捉える力、他者と協力して推進する力)
中期取組目標	
○社会に貢献する一員として、自分らしさを発揮し、生きがいと誇りをもって、幸せに生きる人の育成を目指し、学校全体で取り組みます。 生徒一人ひとりの思いを大切にし、主体的に取り組めるように次の点を意識させていきます。 ・「気づき考える」「自分で決める」「進んで行動する」そのために「失敗を恐れず、挑戦続ける」 ○日吉台中学校教職員の心構えとして、次の点を重視します。 ・「傾聴」「受容と共感」を大切にして、生徒理解に努めます。日頃から生徒の良いところを「認めて褒める」ことを実践します。 ・生徒の自己決定を促すことを大切に、説得ではなく、納得を引き出す指導、支援に努めます。 ・「率先垂範」「凡事徹底」を常とし、教職員は、生徒にとって良きモデルになるように努め、人間力を育みます。	

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①小中連携を密にし9年間の継続性を重視するため、お互いの取組やより良い授業・評価方法などを共有し実践していく。②普段から授業を見合い、より良い授業の工夫などをシェアしお互いの授業力向上に努める。③細かく評価し生徒へフィードバックすることや学習状況調査などのデータ分析を活用し、個々に合わせた適切な指導や授業改善に努める。
担当	教育課程・学習

学力向上に関わる本校の状況	今年度の目標
◇全国学状では、国語・数学両教科とも全ての問題で正答率が全国平均を上回っている。横浜市学状でも、各学年とも全体的に市平均を上回っている。特に「知識・技能」の観点ではほとんどの教科で高い正答率を示しており、基礎的な知識の理解や技能の定着が良好であることがわかる。 一方で「思考・判断・表現」の問題では教科によって差が見られ、特に複雑な思考を要する問題では正答率が下がっていた。今後は、基礎学力の維持に加え、高度な論理的思考力や表現力を育成する指導のさらなる充実が必要であると思われる。 ◇「学習意識調査」では、全学年とも大半の質問に対して「できている」に相当する答えが市平均を上回っていた。ただし、1学年では「自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集めたり話し合ったりしている」「課題の解決にあたって、様々な情報の中から必要なものを選ぶようにしている」等の質問は市平均を下回っていた。課題を見つけてその解決方法を探求する取組を今後の学習活動に取り入れる必要がある。また、「学習したことを普段の生活の中で活かそうとしているか」という質問では、複数の学年で市平均を下回った。「日々の学習は生活に、自分の将来につながっている」という意識をもたせたい。	◇誰一人取り残さない(ボトムアップ) ◇個々の生徒にあった適切な指導とフィードバック ◇ENAGEEDの全校実施により、リーダー性・人間力を向上し、「自分で考え、動く」「狭い世界・閉じた世界の中ではなく、幅広い視点と知識を身に付ける」
目標を実現するための具体的行動プラン	目標を実現するための具体的行動プラン
上半期	◇2年数学では全クラスT.Tで授業を行うことにより、複数の視点で生徒の学習状況を看取していく。 ◇授業力向上強調週間で、教員が互いの授業を見合い、良いところを見つけたりアドバイスをもらったりすることで授業改善に活かす。 ◇毎日の授業や特別活動のなかで「認めて褒め、自己決定を促す」ことをより増やし「生徒が自分で考え、動く」ようにする。 ◇夏季休業前に授業評価アンケートを全生徒・全教科で実施し、授業改善の手立ての一つとする。
下半期	◇定期試験前に学習会を実施することで、試験学習の一助とする。 ◇年2回、教員同士で授業を見合う週間を設定し、授業改善の手立ての一つとする。 ◇ENAGEEDを通して、「自分で考え、動く」といった自主・自立の面を強化する。また、発表する場を設けることで身につけたことを活かしたり、成功体験につなげたりする機会をつくる。 ◇各教科で意図的にグループ学習を取り組むなど、社会情動的コンピテンシーの向上につながる活動を増やす。



豊かな心の育成推進プラン

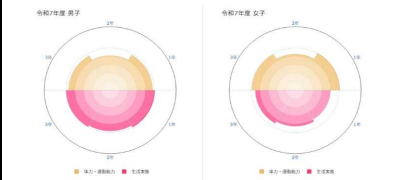
重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①生徒の実態をしっかりとりえ、体験的活動を通じて、自己を見つめ、他者との関わりを考える機会を多くつくり、自他を尊重する心の育成に努める。 ②道徳授業の充実をねらいとした研修会等を行い、教員側の意識向上や授業力向上を図る。
担当	道徳・人権・特活

豊かな心に関わる本校の状況	今年度の目標
生徒の話を書くときは「傾聴」「受容と共感」を心がけ、生徒理解に努めている。また、生徒会活動や学校行事、日々の学級活動等では、互いの違いを認め合い、他者を受容し、相手の気持ちを考えた言動を心掛ける取組を行っている。 全学年で「ローテーション道徳」を実施しており、学年の全職員が順番に全クラスを回り生徒を見ている。多くの職員が目で一人ひとりの子どもを見て話を聴く体制を整えている。 生徒は全体的に明るく落ち着いた学校生活を送っている。礼儀正しく、あいさつをしっかりできる生徒が多い。 しかし生徒会活動や学校行事への取組、学級活動等では、主体的に考え、行動する力はまだ十分とはいえない状況である。また、他者とのコミュニケーションをとることが苦手な生徒が年々増えてきている。 今後は主体的に考え、行動する力の育成やコミュニケーション能力の向上に取り組んでいく必要があると考えられる。	言語活動の充実、コミュニケーション能力の向上 自己を見つめ、他者との関わりを考える機会を多くつくり、自他を尊重する心を育成する。
目標を実現するための具体的行動プラン	目標を実現するための具体的行動プラン
上半期	○道徳の授業や日々の活動を通して、自己を見つめたり、他者とのかかわりを考えたりする機会をもつ。 ○集団や社会の一員としての自覚や自己有用感を育みながら自尊感情、規範意識を高められるよう、多様な活動を推進する。 ○1、2年生での遠足(チームビルドなど)、各行事の内容を充実させ、社会的スキルの系統的な育成を図る。 ○特別支援教育の充実を図り、支援を必要とする生徒や支援があることで安心できる生徒に向けて、授業のユニバーサルデザイン化を推進する。
下半期	○体験的活動を通じて、自己を見つめたり、他者とのかかわりを考えたりする。 ○文化祭等の行事を充実させ、社会的スキルの系統的な育成を図る。 ○人権講演会を通して、人権意識や人権感覚を向上させる。 ○あいさつ運動や赤い羽根共同募金を通して、他者とのかかわり考える機会をもつ。 ○チームで取り組む行事(百人一首や球技大会)を通して、主体的に考え、行動する力やコミュニケーション能力を養う。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①体育祭や球技大会等の体育的行事を計画的に行うことにより、生徒の運動や体力づくりに対する関心を高めたい。 ②新体力テストの結果等を活用し、自己の体力を分析することや、体力向上と生涯スポーツの視点をもちながら部活動や保健体育の授業に取り組む。
担当	体育祭・体育・保健

健やかな体に関わる本校の状況	今年度の目標
(1)体育・健康に関する実態 ・「運動・スポーツの実践状況」は市の平均と比べて実施頻度、実施時間ともに上回っている。多くの生徒が運動に親しむ様子があるのがわかる。 ・「朝食の有無」については市の平均を上回っているが、「睡眠時間」については市の平均を下回っている。 ・保健室の利用状況(傷病の状況)は非常に多く、2人体制ではあるものの日々対応に追われている。外科的症状での来室理由は擦り傷、切り傷、捻挫などであり、軽傷のものも多い。 ・体力テストの結果を見ると、全国の平均よりも下回る項目が多くあった。 (2)体力の概要と要因の分析 結果を見ると、市の平均を下回っている項目が多い。結果の要因として、部活動の活動時間の制限、部活動が多く、活動場所が十分に確保できないこと等があげられる。体育の授業ではラジオ体操を毎回行うことで基礎体力の向上や運動を持続することの大切さを教えている。また、巧みに体を動かす力を獲得するためにコーディネーションに取り組ませている。部活動では活動時間や場所の制限がありつつも内容を工夫することによって基礎体力や競技特性に合わせた運動能力の獲得を目指している。これらを組み合わせることで生徒の体力を向上させ、市の平均により近づけるようにしていきたい。	体力向上1校1実践運動 ラジオ体操 基礎体力の向上、巧緻性、柔軟性の向上、怪我をしない身体づくり
目標を実現するための具体的行動プラン	目標を実現するための具体的行動プラン
上半期	《保健体育科での取組》 ・授業の準備体操で毎時間ラジオ体操を行い、基礎体力の向上に努める。 ・「新体力テスト」の結果から自分自身の体力について知り、基礎体力の向上を目的とした運動を授業内や日常生活などに取り入れられるよう考えさせ、実践させる。 《他教科での取組》 ・家庭科では、栄養のバランスを考えた調理実習のメニューを取り入れ、食材を生かす調理方法を教える。 ・理科では、環境が人体に与える影響や、進化論について考える。 《特別活動・総合的な学習の時間》 ・学校行事の中で、体育的行事を多く企画し、その行事の練習時間を確保する。 ・保健委員会では、生徒の睡眠や飲み物の成分解明、朝食の大切さなど健康に関することを、幅広く保健だよりなどを利用し周知する。 ・安全指導では、自ら危険を回避し安全を確保することができるよう避難訓練や学校保健委員会などを活用し、知識を身につけ、実践できるように指導する。 ・学区の小学校の栄養教諭と昼食指導を通して連携し、食育だよりを発行する。
下半期	《保健体育科での取組》 ・自己の体力について分析し、様々な種目への取り組みを通して生涯スポーツとしての捉え方を考えていけるよう指導する。 《他教科での取組》 ・家庭科では、栄養のバランスを考えた調理実習のメニューを取り入れ、食材を生かす調理方法を教える。 ・理科では、環境が人体に与える影響や、進化論について考える。 《特別活動・総合的な学習の時間》 ・学校行事の中で、体育的行事を多く企画し、その行事の練習時間を確保する。 ・保健委員会では、生徒の睡眠や飲み物の成分解明、朝食の大切さなど健康に関することを、幅広く新聞や動画発表などを利用し報告する。 ・安全指導では、自ら危険を回避し安全を確保することができるよう避難訓練などを活用し、知識を身につけ、実践する。 ・学区の小学校の栄養教諭と昼食指導を通して連携し、食育だよりを発行する。



重点取組分野	令和 7 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①小中連携を密にし9年間の継続性を重視するため、お互いの取組やより良い授業・評価方法などを共有し実践していく。②普段から授業を見合い、より良い授業の工夫などをシェアしお互いの授業力向上に努める。③細かく評価し生徒へフィードバックすることや学習状況調査などのデータ分析を活用し、個々に合わせた適切な指導や授業改善に努める。	①小中一貫教育の取組で幹事校の授業研と、中学校での授業研を通して、9年間で育てたい児童生徒像の共有を図ることができた。②授業を見合う週間を通して授業力アップに努めた。③全国学状、横浜市学状の結果では、どの学年も基礎学力の高さが表れていた。	B
豊かな心	①生徒の実態をしっかりとらえ、体験的活動を通じて、自己を見つめ、他者との関わりを考える機会を多くつくり、自他を尊重する心の育成に努める。②道徳授業の充実をねらいとした研修会等を行い、教員側の意識向上や授業力向上を図る。	①遠足や修学旅行等の行事では班別自主行動の場を設定し、互いに協力し助け合う活動を通して自他を尊重する心の育成に努めた。1学年では地域の福祉介護職の方を招いて「認知症サポーター養成講座」を開説し、認知症の方との関わりについて考える機会を得た。②夏休み明け前日の出勤日に外部講師（北部ハマアップ授業改善支援員）を招いて「道徳の授業と評価」についての校内研修会を実施した。豊富な資料に丁寧な説明で、振り返りアンケートでも「学びがあった」という声が多く寄せられた。	A
健やかな体	①体育祭や球技大会等の体育的行事を計画的に行うことにより、生徒の運動や体力づくりに対する関心を高めたい。②新体力テストの結果等を活用し、自己の体力を分析することや、体力向上と生涯スポーツの視点をもちながら部活動や保健体育の授業に取り組む。	①5月に体育祭を実施した。意欲的に行事に取り組む姿が見られ、体力の向上につながる姿勢があった。次年度も行事等を通じて運動や体力づくりの関心を高めたい。②新体力テストの結果より、自己の体力を分析したり、これまで行ってきたトレーニングの効果について考えることができた。また、自己の体力の課題を捉え、普段の生活やトレーニングにいかすことができた。	A
自分づくり教育 (キャリア教育)	・全学年に導入したエナジードという教材をメインの柱としてインプットし、「身近なことで改善できること」、「まちの先生」や「SDGs」をテーマとした課題解決学習を並列で学習しアウトプットすることで、自分自身のより良い生き方や考え方について学び、3年の進路学習を通じて、自己決定と進路実現の実践力を養えるよう指導する。	・エナジードを用いて課題解決に向かう力を養い、「身近なことで改善できること」、「まちの先生」や「SDGs」をテーマとした課題解決学習を展開した。インプットとアウトプットをくり返すことで、自分自身のより良い生き方や考え方について学び、3年の進路学習を通じて、自己決定と進路実現の実践力を養うことができた。	A
いじめへの対応	・いじめ防止対策委員会を定期的に開催しいじめの早期発見と未然防止に努め、具体的な支援を推進する。教育相談の時間を十分に確保し、生徒の成長や変化、困り感等に寄り添うようにする。横浜こども会議への取組などを通して生徒の主体性や意見表明を尊重し、いじめの未然防止、豊かな心の育成を図る。	・いじめ防止対策委員会では積極的認知・積極的解消を支援することができた。また横浜こども会議やいじめ解決キャンペーンの成果等を活用しながら予防策や支援策を広く協議し、いじめ防止基本方針に生徒の声を反映させることができた。定期的教育相談に生徒の日々の相談活動の充実に努め、生徒に寄り添う姿勢を学校全体で作ることができた。	A
人材育成・組織運営(働き方)	①メンターチームを組織し、ミドルリーダーが中心となって定例の研修を継続して行い、ステージ1,2の教職員の実践力を高める。②情報交換連絡会等を活用しながら、教職員がそれぞれのステージにおいて学校運営に主体的に関われるように務める。③情報DXを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、持続可能で組織的な働き方改革を推進する。	①メンター研修を定期的に開催し、ステージ1,2の困り感に沿った内容の研修を実施、実践につなげた。②様々なステージの教職員が係代表や行事責任者を経験することを通して、学校運営に主体的に関わることを実感できた。③業務改善係が年度途中にも改善策を提案したり、組織マネジメントツールを活用した校内研修や対話を続けている。効果を実感するまで、継続したい。	B
特別支援教育	①特別支援委員会の定期開催と内容の充実を図り、現状や一人ひとりの思いに基づいて支援を要する生徒に対する理解を深める。②不登校支援やユニバーサルデザインに関する研修を行い、職員での理解を深める。③校内ハートフルの運営方法を検討し、生徒の居場所作りの1つとして充実を目指す。	①生徒の状況が多様化していく中で、必要な情報を必要な時期に提示できるように今後も心掛けていく。③校内ハートフルでの支援内容について、各教科の取り組みは増えてきた。生徒の居場所という在り方だけでなく、それぞれのステップアップの場になるように、引き続き充実を目指す。	A
生徒の主体的な活動	・生徒自治の充実とチャレンジ精神の育成に努める。生徒会活動や委員会活動を活性化し、生徒が企画や運営を行い成功体験を積み重ねる中で、挑戦する気持ちが育むよう声掛けや支援を行う。	・体育館開放や卒業フェスなど、企画や運営を生徒会が主体となって行うことをサポートすることで、挑戦する気持ちや、主体的に活動する姿勢をばぐぐむことができた。また各委員会も体育祭や文化祭といった行事や、普段の委員会の活動を通して、主体的に行動する機会を設けることができた。	A
生徒指導	①学校のきまりについては現在の社会情勢に沿うか検討するとともに、生徒自らが考え話し合う機会を設定し、見直しを図る。②年3回の教育相談日の設定、日々の毎日の健康観察(スタナビの活用)、日頃からの声かけなど、生徒一人ひとりの思いに寄り添った生徒指導に組織的に取り組む。③生徒指導研修会を実施し、Y-Pアセスメント等を活用しながら組織的な対応を行う。	①生活委員が中心となりきまりについて話し合う機会を設定し、見直しを図った。②日々のスタナビの状況や年3回の教育相談における生徒の情報や学年教職員で共有するとともに、日頃の声かけを積極的に行い生徒の状況把握と支援に努めた。③生徒指導研修会を2回実施し、教職員の指導方針を一致させ、生徒一人ひとりに寄り添った組織的な指導に努めた。	A
地域連携	学校運営協議会や学校・家庭・地域連携事業の活動を通して、地域と学校との意思疎通を充分に図り、地域とともにある学校運営を推進していく。地域行事や夏の祭礼、各種イベントなどで生徒が地域社会でいきいきと活動できるように、学校地域コーディネーターとの連携をさらに推進していく。	学校運営協議会からのご意見などを受け、地域と学校のつながりを意識する場面を多く展開することができた。専任やコーディネーターの橋渡しで地域の各団体を学校と結びつけることもできた。生徒会役員が地区センターボランティア活動をしたり、祭礼や登校指導に職員が参加するなど、具体的な活動の場も多くなっている。	A
ブロック内評価後の 気付き	アンケートの結果から、どの項目においても「とてもそう思う」「そう思う」の回答が多く見られ、あらゆる取り組みについて適切に対応できている様子を感じた。また、生徒のアンケート結果から「学校生活が楽しい」「きまりやマナーを守る」「安全に気をつけて」の評価が高いことから、心身ともに健全な学校生活を送れているということが感じられた。実際に授業等見学した際には、生徒会活動や部活動に熱心に取り組む、充実した学校生活を送っている様子が伺えた。メディアの使い方の結果の差が大きいのは、親子の世代感が影響しているように考える。各家庭でルールを作り、有効な使い方をしているかについて話し合うよう促す。また、保護者の「わからない」の回答についてもHPやすぐる等を通して、生徒の日常を配信する工夫も考えられる。		
学校関係者 評価	生徒数1000人を超える大規模校でありながら、様々な場面で生徒の安全と安心を心がけ、生徒に寄り添い、教育活動を丁寧に行っていることは評価できる。「いじめの未然防止、積極的ないじめの認知」の取組や対応も組織的に行われ、成果も上がっている。校内ハートフルでの支援や体制も良い形で整いはじめ、今後も生徒一人ひとりが安心して学校生活を過ごせるように努力を続けてほしい。 教職員、生徒、保護者のアンケート結果を数値化し、今年度は子どもの声を学校づくりアンケートに反映させた。きちんと分析するなどして、今後も生徒の思いを汲み取り、自信をもって教育活動に取り組んでいきたい。		

中期取組 目標 振り返り	中期経営方針の取組目標としている「傾聴」「受容と共感」を大切にした生徒理解に努め、生徒の良いところを「認めて褒める」ことを実践し、自己決定を促したり、指導が必要な場面でも説得ではなく、納得を引き出す指導、支援に努めたりしている。生徒には「将来、社会に貢献する一員として、自分らしさを発揮し、生きがいと誇りをもって、幸せに生きる人」になってほしいと願い、子どもが主体的に自分の考えや思いを発信できる機会を様々な場面で取り入れた。一定の成果はあったので、今年度の振り返りを職員で共有し、学校教育目標「共に生きる」の実現に向けて、次年度も継続していきたい。
--------------------	---

重点取組分野	令和 8 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①小中連携を密にし9年間の継続性を重視するため、お互いの取組やより良い授業・評価方法などを共有し実践していく。②普段から授業を見合い、より良い授業の工夫などをシェアしお互いの授業力向上に努める。③細かく評価し生徒へフィードバックすることや学習状況調査などのデータ分析を活用し、個々に合わせた適切な指導や授業改善に努める。		
豊かな心	①生徒の実態をしっかりとらえ、体験的活動を通じて、自己を見つめ、他者との関わりを考える機会を多くつくり、自他を尊重する心の育成に努める。②道徳授業の充実をねらいとした研修会等を行い、教員側の意識向上や授業力向上を図る。		
健やかな体	①体育祭や球技大会等の体育的行事を計画的に行うことにより、生徒の運動や体力づくりに対する関心を高めたい。②新体力テストの結果等を活用し、自己の体力を分析することや、体力向上と生涯スポーツの視点をもちながら部活動や保健体育の授業に取り組む。		
自分づくり教育 (キャリア教育)	全学年に導入したエナジードという教材をメインの柱としてインプットし、「身近なことで改善できること」をテーマとした課題解決学習を並列で学習しアウトプットすることで、自分自身のより良い生き方や考え方について学び、3年の進路学習を通じて、自己決定と進路実現の実践力を養えるよう指導する。		
いじめへの対応	・いじめ防止対策委員会を定期的に開催しいじめの早期発見と未然防止に努め、具体的な支援を推進する。教育相談の時間を十分に確保し、生徒の成長や変化、困り感等に寄り添うようにする。横浜こども会議への取組などを通して生徒の主体性や意見表明を尊重し、いじめの未然防止、豊かな心の育成を図る。		
人材育成・組織運営(働き方)	①メンターチームを組織し、ミドルリーダーが中心となって定例の研修を継続して行い、ステージ1,2の教職員の実践力を高める。②行事の運営や校務分掌を工夫し、教職員がそれぞれのステージにおいて学校運営に主体的に関われるように推進する。③情報DXを活用した業務の効率化や情報の共有化を図るとともに、持続可能で組織的な働き方改革を推進する。		
特別支援教育	①特別支援委員会の定期開催と内容の充実を図り、現状や一人ひとりの思いに基づいて支援を要する生徒に対する理解を深める。②不登校支援やユニバーサルデザインに関する研修を行い、職員での理解を深める。③校内ハートフルの運営方法を検討し、生徒の居場所作りの1つとして支援の充実を目指す。		
生徒の主体的な活動	・生徒自治の充実とチャレンジ精神の育成に努める。生徒会活動や委員会活動を活性化し、生徒が企画や運営を行い成功体験を積み重ねる中で、挑戦する気持ちが育むよう声掛けや支援を行う。		
生徒指導	①生活のマナー、生徒心得について生徒自らが考え話し合う機会を設定し向上を図る。②長期休業明けの教育相談、毎日の健康観察、日頃の声かけなど生徒理解に基づいた粘り強い支援に組織的に取り組む。③YPアセスメント等を活用しながら、一人ひとりに寄り添った組織的な対応を推進する。		
地域連携	学校運営協議会や学校・家庭・地域連携事業の活動を通して、地域と学校との意思疎通を充分に図り、地域とともにある学校運営を推進していく。地域行事や夏の祭礼、各種イベントなどで生徒が地域社会でいきいきと活動できるように、学校地域コーディネーターとの連携をさらに推進していく。		
ブロック内 評価後の 気付き			
学校関係者 評価			

中期取組 目標 振り返り	
--------------------	--

重点取組分野	令和 9 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
自分づくり教育 (キャリア教育)	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	c6		
特別支援教育	c7		
生徒の主体的な活動	c8		
生徒指導	c9		
地域連携	c10		
ブロック内 評価後の 気付き			
学校関係者 評価			

中期取組 目標 振り返り	
--------------------	--